



中小企業はブラックか、  
という問いから2020年  
度の講義「中小企業を学ぶ」  
は始まった。この問いに対  
するレポートでは、中小企  
業にネガティブな印象を持  
つ学生が多く、その理由も  
バイアスがかかっていると  
思われた。

本講義は、愛知中小企業  
家同友会の協力を得て、同  
会から池内秀樹氏と4人の  
経営者（明石耕作氏、城所  
真男氏、水野清香氏、溝口  
博己氏）、そして小職を含  
めた6人で2015年度か

### 「中小企業を学ぶ」座談会から

んのない意見交換が行わ  
れた。今回はその際のコメ  
ントから「講義を通じた経  
営者の学び」を紹介した  
。

中小企業について正しい  
情報を伝えるにはどうすれ  
ばよいか。講義すること  
は、登壇者自身が学生から  
問われることを意味する。  
そして経営者は日々、従業  
員からも問われている。こ  
れは経営者にとって、会社  
の信用問題につながる。問  
われることに耐えうる自分  
であるために、勉強強して  
登壇する。これが池内氏の  
コメントであった。

続いて明石氏は、企業は  
「環境適応業」である。環  
境適応力を恐竜と「キブリー  
」社員であればこのくらい  
は言わなくてもわかるだろ  
う」という姿勢から、自分  
が考えていることを「丁寧  
にわかりやすく話す」ぎっ  
かけになったという。

# 講義を通じた 経営者の学び

ら開講している。6年目を  
迎え、講義をやることによ  
る登壇者自身の学びについ  
て同僚と全講義終了後に  
座談会を行い、忌憚（きた  
）



愛知淑徳大学  
ビジネス学部教授  
浅井 敬一郎

を比較して講義した。事例  
を考える際に「エネルギーシ  
ョンギャップを回避するこ  
とは、社員に対してどう伝  
えるかを熟考する機会にな  
っている。また自社の年初  
の挨拶では、「コロナ禍で  
氷河期になった。変わらう  
よ」と呼びかけた。講義の  
度に、自社が環境に適応で  
きているかを考える機会に  
なったという。

城所氏は、大学生に対す  
る講義では、受講者が何も  
知らない前提で、パワーポ  
イントなどの準備が必要に  
なる。このことを通じて、  
本講義が受講者だけでな  
く、経営者の方々にも少  
しは貢献できたことがわか  
り、胸をなぐ下ろしている。  
2021年度もこのメンバ  
ーで充実した「学び」を続  
けたい。

あおい・けいいちろう 技術・  
生産管理。広島大学大学院国際協  
力研究科博士課程修了。博士（学  
術）。1967年生まれ。